

京都検定講演会講師による‘よもやま話’。京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

第21回 京都検定 3級公開テーマ「祭と行事」

パンデミックの終息を願い 「鷹山」の新たな一歩

[講師]
塩原 直美
京都観光
アドバイザー



祇園祭の山鉾巡行は3年ぶり。祇園祭の本義は「疫病退散」、まさに今世界で広がる感染症のパンデミックを乗り越えよう！と、皆の願いが一つになる1ヵ月です。このような中、196年ぶりに後祭巡行への復帰が叶った「鷹山」に大注目。去る5月4日には、晴天の中、本番さながらの試し曳き、辻回しが京丹波町で行われました。

巡行に参加できなかった196年のときを感じさせない山の再現に一役買ったのが、いくつかの絵画資料です。そのひとつが江戸時代後期に京で活躍した絵師・横山華山の「祇園祭礼図巻」。その絵巻には天保6～8年(1835～1837)の「鷹山」の姿があります。この時、既に「鷹山」は休み山になっていましたが、文書記録と一致した懸装品が詳細に描かれ、休み山となる以前の姿を見ることができます。

2014年の囃子方復活から8年、2015年5月の一般財団法人鷹山保存会の設立から7年を経て、華やかな懸装品で飾ら



会所に飾られたご神体や見送



本年5月の試し曳きの様子 (撮影:大道雪代)

れた総重量約10トンの山の新たな歴史が、今年、衣棚町から「エンヤラヤー」と動き出しました。今回は単に休み山の復活というだけに留まりません。全世界が難局に直面し、心身にストレスを抱えている今、この「鷹山」の門出に、誰もが勇気、元気、活力、希望をもらったことでしょう。

「鷹山」は、鷹狩りをする鷹遣と犬遣、そして樽を背負いつつ粽を持つ樽負といった、3体が御神体です。呑気に粽を食べようとしている男は何とも滑稽。この不可思議でユーモラスな組み合わせの意図は解けない謎？ 巡行では鮮やかな金地に麒麟が舞う一番水引や真木の松にちょこんと止まる約70cmの木製のキジなども見どころです。そして、心から拍手を送りたいのは、供奉、囃子方、車方、手伝方、大工方、屋根方、音頭取り、そして曳子など、復活に尽力してくださった多くの皆様。本当にありがとうございました!!エンヤラヤー!!

第21回 京都検定の申し込みを 8月19日(金)より開始します!

試験日 2022年12月11日(日)
[3級] 10:00～ [2級・1級] 13:30～

試験会場 京都市内・東京都内の施設

試験級受験料
[3級] 3,850円 (団体:3,080円)
[2級] 4,950円 (団体:3,960円)
[1級] 7,700円 (団体:6,160円)

※別途、システム利用手数料550円(税込)が必要です。

申込期間 [個人] 8月19日(金)～10月27日(木)
[団体] 8月19日(金)～10月12日(水)

公開テーマ
[3級] 祭と行事
[2級] 京の国宝～美術工芸品～
[1級] 京の茶室

※京都検定では「公開テーマ」に関する問題が各級10問出題されます。

※「京都・観光文化検定試験®」、「京都検定®」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。